

日本では政治と宗教は原則として分離されており、政教分離ということになっていますが、ユダヤの国は政教一致です。国会にあたる最高法院の議長は、ユダヤ教の最高責任者である大祭司が任命されることになっていましたし、最高法院もユダヤ教の四大党派が構成メンバーとなっていたのです。

ユダヤ教の四大党派は、サドカイ派、ファリサイ派、エッセネ派、熱心党になります。皆様いずれもお聞きになったことがある名前と思います。

①サドカイ派

国の中でも身分の高い、貴族や大土地所有者を中心とした党派で、親ローマの立場をとっていました。礼拝儀式を重んじますが、形ばかりを重んじてしまったため当時の礼拝が形骸化していたと言われていました。また、復活を否定していたことでも知られています。

②ファリサイ派

国の中で中産階級の人々を中心とする党派で、最高法院ではサドカイ派に次ぐ第二派閥となっていました。反ローマの立場をとり、律法を守ることこそ何よりも重要と主張しました。ところが律法を主張する時に自分たちだけが正しく、一般の人々は律法を守らない、守れない罪びとと決めつけ、差別をしていたのです。新約聖書にはユダヤ社会の激しい差別構造があちこちに顔を見せていますが、これを作り出していたのはファリサイ派の人々で、イエス様ご自身が一番多く議論しつつ反省を促したのも彼らでした。しかしファリサイ派の人々は耳を傾けることなく、イエス様を十字架にかける先頭に立つことになったのは皆様もご存知の通りです。

③エッセネ派

サドカイ派、ファリサイ派が主に都市部で活動したのに対し、荒野へ退き修道院的生活をしながら活動したのがエッセネ派です。ハスモン王朝を否定し、共有財産制、共同生活、独身主義を貫きました。聖書の記述から、洗礼者ヨハネがエッセネ派の一員だったのではとも言われています。

④熱心党

主にガリラヤを拠点として活動したグループです。ユダヤ民族をこよなく愛

し、ユダヤに敵対する者をどんなことをしてでも排除しようとししました。その活動はゲリラ的で非常に過激であったため、この名前がつけられています。

本日の福音書に登場したのがこのサドカイ派です。復活を否定していたことから、イエス様の教えと大きな対立となっていたのです。イエス様はすべての人の復活を説いておられ、ご自身がその先駆けとして十字架からの復活を予告しておられたのです。

サドカイ派の人たちがイエス様と議論をしたのは、十字架の3日前、火曜日の出来事でした。イエス様とサドカイ派の最後の議論となったのが本日の箇所でした。サドカイ派の人たちは今日もイエス様に敗北することになりましたが、自分たちの考えや生き方を改めようとせず、イエス様を十字架につけることになっていくのです。自分自身が改めるよりも、相手を自分の前から取り去ることしか考えられなかったのです。

私たちが生き方を改めねばならない時、サドカイ派の有様は私たちに大きな示唆を与えてくれます。神様に従う、イエス様の十字架の責任、改めてそのことをしっかり心に刻みたいものです。